

一期生・二期生の先輩方の合格・内定体験記

◇ 鹿児島大学農学部食料生命科学科

二期生:文理科(末吉中出身)

私は大学受験を通し、大変さを感じるとともに多くのことを学ぶことができた。本番までの日数が減ることで焦ったり、今すぐにでも受験したい気持ちになったり、なんとも言えない感情が繰り返された。受験してから合格発表の日までドキドキが止まらず、自分の受験番号を見つけたときは何度も確認し喜んだ。その嬉しさは忘れられない。

振り返って1番に思うのは、高い目標を設定していて良かったということだ。センター試験では目標としていた点数に届かなかったが、今までで最高の点数をとることができた。そのおかげで鹿児島大学の合格の可能性を高めることができた。

受験勉強で「できてよかった」と思うことはセンター試験や各大学の過去問を解くことだ。過去問を解くことによって、時間配分や解く順番を考え、自分に合った時間配分や解き方を見つけることができた。また、同じ問題を何回も解くことで、自分のつまづいたところや理解できていないところを確認でき、自分が覚え直したことや理解できたことを定着させることができた。

「しておけばよかった」と思うことは、早い時期からの勉強と模試の復習だ。私は正直言って夏を制することができなかった。センター試験の100日前を切っても、気持ちは焦るが、あまり行動に移すことができなかった。模試の復習は、1年生の頃から解答の解説を呼んだり、解き直したりしていたが、理解は浅かった。ただ書き写すだけでなく、解けるようになるまで何度も復習し、理解を高めることが必要であったと思う。

大学受験を通して、クラスの温かみや様々な先生の支えを改めて感じる事ができた。合格の報告をすると、家族や友人、先生も喜んでくれて本当にうれしかった。最後に、今までお世話になった方々に感謝の気持ちを伝えたい。ありがとうございました。

◇ 霧島酒造株式会社

一期生:商業科(末吉中出身)

私は、幼い頃から霧島酒造が主催するイベントに参加し、普段から霧島水を飲むなど、この会社にとっても親しみを抱いており、いつかはここで働きたいと考えていました。高校を選択する際、この会社の事務職として就職したいと考え、本校商業科を選択し、日商簿記2級をはじめ、たくさんの検定に挑戦しました。高校では、バトミントン部に所属し、様々な大会に参加する中で、霧島酒

造のチームを拝見する機会がありました。「黒霧島」と大きく書かれたTシャツで試合に出ている姿がとてめにかっこよく、楽しそうに取り組んでいる姿が印象的で、仕事だけでなくプライベートも充実していて、この会社に対する気持ちがますます強くなりました。

事務職の募集人数は1人でした。毎年、他校から採用されており、厳しい戦いが予想されました。私は、どうしたら勝負できるかを考え、「どうしても貴社で働きたい」という強い気持ちと熱意をアピールすることにしました。2年次のインターンシップと3年次の企業見学でお世話になり、私を少しでも覚えていただけるように積極的にアピールをしました。インターンシップでは、初めの自己紹介で、たくさんの社員の方々の前で、自己紹介に加えて「どうしても御社で働きたい」という熱い思いを伝えました。その際、多くの方々に温かく好意的に迎えていただき、とてもうれしく、自信がつかしました。

3年生の4月からは、就職試験の準備が始まりました。5月はまず自己PRを考え、6月からは面接における接遇マナーなど所作を学び、入退室まで一連の流れが自然とできるように何度も繰り返し練習しました。7月からは本格的に面接練習を始め、夏休みも毎日学校に通いました。面接練習はとても辛かったです。質問に対して上手く答えることができず、逃げ出したくなる時もたくさんありました。時には、面接練習に行きたくないと思ったこともありましたが、たくさんの仲間が支えてくれたので乗り越えることができました。夏休みが明けた9月からは、担任の先生だけでなく、他の学科の先生にも面接練習をお願いし様々な角度からたくさんのアドバイスをもらいました。そうすることで、度胸も身につき、内容も深まっていきました。

就職試験本番では、今まで練習してきたことが自信につながり、特に緊張もせず、普段どおりすべてを出し切ることができました。面接はとても楽しく感じ、あっという間に終わりました。それでも結果が届くまでは不安でした。内定通知を頂いたときは、とてもうれしく、今まで頑張ってきたことが報われたと思いました。また、家族やクラスメイトも一緒になって喜んでくれました。

後輩の皆さん、高校生活の3年間はあっという間に過ぎていきます。早く就職したい会社を見つけ、作戦を練って、行動に移すことが大切だと思います。頑張ってください。